

市 民 教 育 會 編

特 251

47

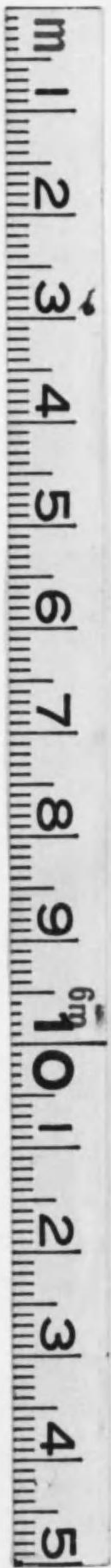
5  
4

前 永  
田 田  
秀 秀  
多 次  
門 郎  
郎 謹  
述

新 生 の 日 本

市 民 パ ン フ レ ム ア

東 京 都 市 協 會 發 行

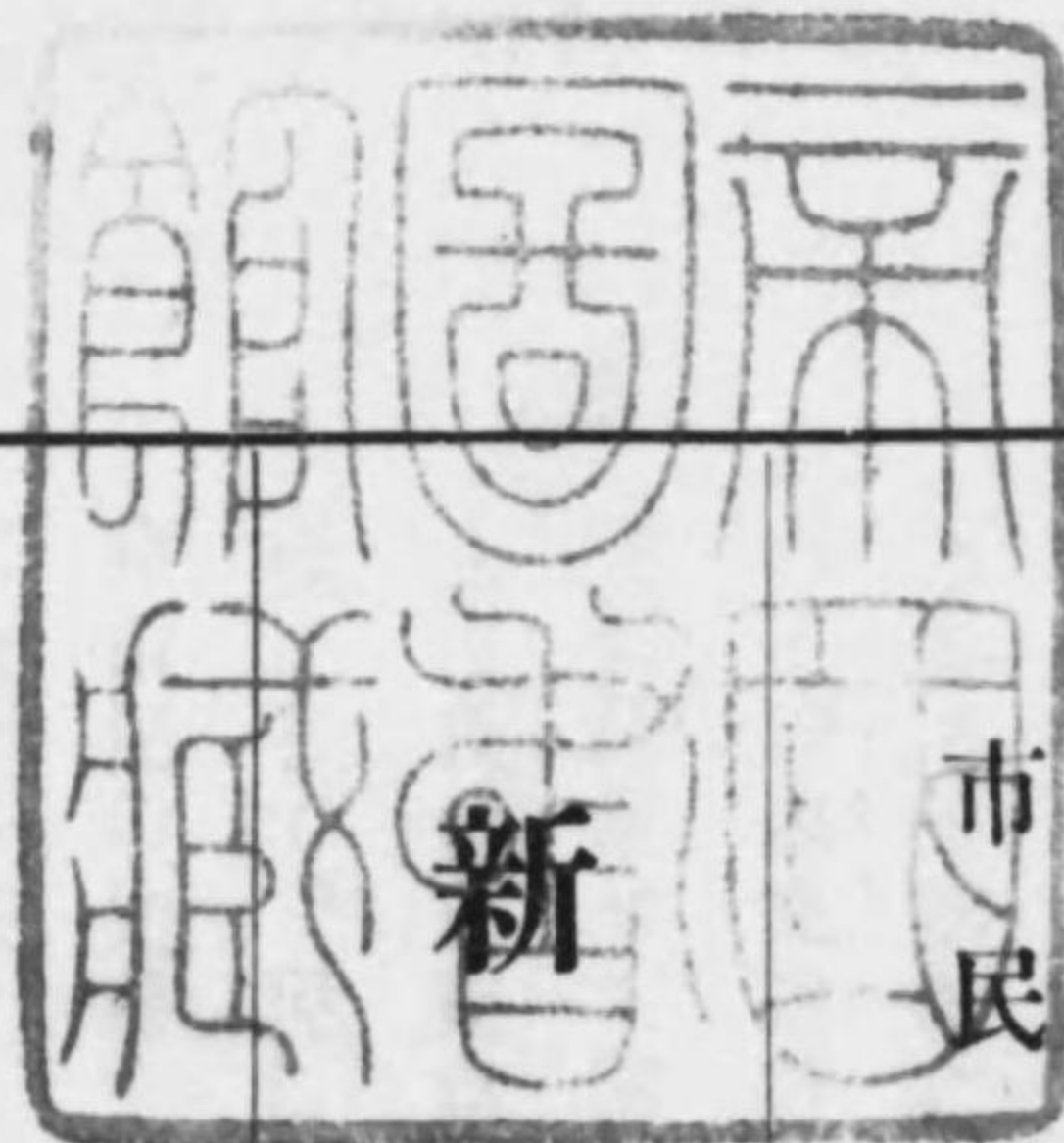


始





特251  
47



市民  
教育會編

生の日本

京東  
都市協  
會發行







序

一、本書は、昭和二年四月二十九日、昭和最初の天長節を機會に、新帝を壽き奉ると同時に、昭和の新世に處すべき心得の一端を東京市民に普及すべく、東京市役所が、永田秀次郎、前田多門兩氏を聘して、東京自治會館に開催せる講演の速記を印刷したものであります。

一、永田氏は前東京市長として、現に貴族院議員たり、前田氏は前東京市助役として、現に財團法人東京市政調査會専務理事の要職に在り、共に東京市民の先輩であります。本書刊行に際し、兩氏並に、東京市役所の御厚意を深謝致します。

昭和二年十月

都 市 協 會



東京市教育委員会

東京市教育委員会

東京市教育委員会

東京市教育委員会

東京市教育委員会

東京市教育委員会

東京市教育委員会

東京市教育委員会

目次

### 新生の日本 目次

一、昭和の新帝を壽き奉る……永田秀次郎 (1)

二、國際生活に於ける我國體の誇り……前田多門 (28)



昭和の日本  
日大

貴族院議員

永田秀次郎謹述

一、昭和の新帝を壽き奉る



## 昭和の新帝を壽き奉る

永田秀次郎謹述

### 一、

本日は昭和第一の天長節祝日でございます。私はこの目出たい日に、お馴染の最も深い市民諸君とこの所にお目に懸りますことは洵に喜びに存する次第であります。この天長節のお目出たい日に私は今上陛下の御聖壽の萬歳を祈り奉り、我國の將來益々盛んになることを希ひまする次第であります。

先づ最初に申し上げて見たいと思ひますることは今上陛下に關係したる御尊さを申上げることです。陛下のお尊さを申上げることには洵に恐縮のことです。また餘り無遠慮のことを申上げましても相済まぬこととなりますので、甚だ申上げにくい所であるのでありますが、若し言葉に間違ひ等のことがあれば訂正を致します。



今上陛下に就きましての、私の印象は主として東宮殿下で居られました時のお話であります。種々の機会にお目に懸つて居りますが、その度に今上陛下のお心持ち、並にお人となりとでも申しませうか、お生れつきなどに就いて非常に深くなつかしいやうな感じを有つのであります。それは私個人として知つて居りますやうな事柄が多いので、少し恐縮でありますけれども、すつと最初に 今上陛下にお目に懸りましたのは大正二年の頃と思ひますが、私は京都府の警察部長をして居りました時に、東宮殿下として度々京都の方に行啓になりました。その時、今でも覚えて居りますが、或る時に嵯峨の方を御廻りになつた時に、あの保津川の邊りで晝の御休みになつて、さうするとまだ陛下が十二位のお歳の頃であつたので、時の大森知事さんが何か御慰みになるやうにといふので鯉を澤山淺瀬に放して御覽に入れた。私も警察部長で、サーベルを吊つてお供をして居つたのです。其時は殿下並びに秩父宮さま、高松宮さまも御一緒であられたが、大森さんが鯉を御覽に入れて、さうして何を思つたか、飛んで

もないことをいひ出した。警察部長は鯉を捉へることが上手ですから、殿下から御命じになれば水へ入つて捉へますと申し上げた。これは飛んでもないことをいはれたと思つて私は屹驚して、閉口して居つたら、殿下は私の方を御覽になつてニコ／＼笑つて居られる、捉へろとでもいはれたら大變だと思つて居りますと、また大森さんは殿下が躊躇して居られるのを見て再び御命じになれば捉へると申上げる、私は困つた、若し這入れと仰せられたら長靴のまま入つて鯉を捉へなければならぬがもごよりの確信はない。出来るか知らん位のことと思つて居つたけれども、さういふ時に二度も大森知事が申上げた。その時に殿下はやはり私の顔を御覽になつて、たゞ笑つて居られた。私は實際閉口したものだから、うつむいて如何にも困つたやうな顔して居ると、幸ひにして到當捉へると仰しやらなかつた。それで私は非常に助かつたのであるが、その時から誠に殿下は有難いお方であるといふことを泌々思つたのであります。これが私が 殿下に御目に懸つた始めての時の深い印象であります。



その次に申上げて見たいと思ひますことは大正十年の春の始めでありましたが、英國の皇太子殿下プリンス・オブ・ウェルズが日本へお見へになりました、その時陛下には東宮殿下として始終御接待をせられて居られたのであります。其の時私は丁度東京市助役をして居りまして、何か英國の皇太子殿下のお慰みにといふことで帝劇の芝居を御覽に入れることになつて、御案内を申上げました。攝政宮殿下にも御同列で御出でを願ふやうに御案内申上げた。ところが殿下には全く始めて帝劇といふ所にお入りになるといふことであつたのであります。丁度帝劇の二階の正面の棧敷の中央部に二つ椅子を据付けまして、さうして英國の皇太子殿下と、日本の皇太子殿下とお二人が並んで御覽になる。さういふやうなことになつて、英國の皇太子殿下は日本の國旗を持たれ、日本の皇太子殿下は英國の國旗を持たれて、國旗と申しましても小さい旗であ

ります、それを持たれて芝居を御覽になつたのであります。その時に私は今世界に於て最も輝ける兩帝國、西に於ては英國、東に於ては日本帝國この兩帝國の兩皇太子殿下が同じところに於て、同じ芝居を御覽になる、この御二人の皇太子殿下が並んで居られる御様子を拜して非常に私は一種の感慨を浮べたのであります。(中畧)

大正十年九月三日に 東宮殿下として御洋行からお歸りになつた。その晩私達は市民諸君と共に提灯行列をいたしまして高輪御殿へ大勢でお祝ひにまゐりました。始めは門内に入るといふことについてどういふお取計ひになるかよく解りませんでした。それが門内に入つて差支へないといふことで、門内に入ることになつたのであります。ところが入つて表玄關の所へ行つて皆萬歳を唱へた。これは一つの團體毎に廻つて來ては一杯になつた時分に萬歳を唱へるといふ風にしました。さうすると殿下には丁度



御歸りになつたその晩のことでありませうから、秩父宮さまや高松宮さまが御訪ねになつて、さうして裏の方の玄關から餘程遠い所の方に當つて居る二階で色々お話になつて居つたのであるが、表玄關で萬歳々々といふ大きな聲が聞へるものですから、可成り遠いお廊下があるのですが、それを二階から降りて來られて玄關で御會釋を賜つたのであります。さうすると殿下がお立ちになつて御會釋を賜るといふので萬歳は三遍の筈であつたのを何時までもやる、殿下がお立ちになる譯にもゆかぬ、殿下が御立ちにならぬと皆が動かぬ。門外はあとから來るもので動きが取れぬ。どうも仕様がないので一度お會釋が濟みましたらば御引下りを願ひ度い。さうでないとは渉らない。それで殿下が二階へ御歸りになつて、御弟宮方と御話になつて居る。さうすると次の團體が來て萬歳をするといふ譯で、丁度私は勘定して見ましたが午後六時から十時半まで約十二回御遠方からお玄關まで出て來られて、その度にお會釋をいたされて居つた。さういふことを拜見しまして、如何にも恐多いことである、何しろ長い間の御旅から

歸られた殿下、人民の情として萬歳を唱へる、これに對して御會釋があるのは有難いけれども、永い間の旅のお疲れ、且弟君と泌々面白いお話をされてゐるのに、長い廊下を十二回もお降りになつて御會釋になるといふことは如何にも御氣の毒なことである、といふ感じをしましたが、さういふことを少しもお厭ひなくお勤めなされるといふことは國民の一人として非常に有難く感じたのであります。けれども、また一方斯ういふことは普通一般の個人として考へても餘り長旅をして疲れて來たのに、隣りの人に何時までも挨拶をして居らなければならぬといふのは個人としても迷惑であるといふ事を考へなければならぬと思ひました。其時の團體の中に入つた者で無作法な様子をした人が可成あつたのです。さういふことを考へまして私はつくづく國民としても餘程皇室に對し奉る心掛けを考へなければならぬことだと斯ういふ風に思ひます。また私は長い間警察をやつて居つた關係から、玄關の眞前に殿下がお出になつて一般民衆との間は一問半か二問弱しか離れて居らない警察の目で見れば萬一のことが起り



やしないかと心配をして私は後から眼を放たず見て居りました。長い間警察の習慣がついて居ります私は、さういふ場合でも何時も御警衛といふ心持で後の方に居りますが、斯ういふ際にも私は何時でも考へることであります。日本の警察はよく人民に干渉し過ぎるといふことも一面の眞理であります、事實であります。これはあまりよくないこと、思ひます。併しながら未だ日本の國民は國民警察といふか、自分自身がいふか、自己警察官になつたやうな心持で、間接に殿下を御警衛申上げるといふ心持が足りないと思ひます。その心得方が足りないと思つてはなればならぬ。何の邊まで行つたら警察が叱るかしら、まで行つても叱らぬから、もつと行かうといふ警察を試すやうでは困る。これは警察と國民との關係であります、殿下の御警衛といふことに就いても出来得る限り面倒を少くしたい。それには國民全體が我々の天皇陛下であるから、皇太子殿下であるからといつて、皆が御警衛申し上げるといふ心持ちを持つてゐないと、私達の眼から見ると不安なやうな感じを致すので、この

點はお互ひに國民として考へなければならぬことであると思ふのであります。

#### 四、

その次に今上陛下に就いてのお噂を申上げることとは大正十一年十一月三十日下度當時殿下が關西地方をお廻りになつて、私の故郷の淡路島へお立寄になつたので、私は當時助役の時でありましたが、私の島に初めて御見へになる時ですから御迎への爲に私は淡路島へ歸りました。さうするとその夜お召艦の伊勢といふ軍艦の中で御陪食を賜つたのであります。その席へ出ますと、殿下が椅子に腰掛けて居られる、殿下の左側に私の椅子がありました、軍艦の食堂でありますから大して廣い事もない。可なり的人数が入りまして椅子と椅子とがくつつ着いて居る。それで私が腰を掛けて居りますと、殿下のお肩と私の肩と擦れ／＼になるので誠に恐縮に感じて、ひよつとして肩がぶつつかるやうなことがあつては相濟まぬと成丈け躰を小さくして左へ左へと逃げる



やうにして居りますと、さうすると伊勢の艦長が左に居るものですから、それにぶつ着かるといふので恐縮をして腰掛けて居りました。丁度殿下が先きに腰をお掛けになつて、我々がその後で腰を降しますと、私はすぐ殿下のお隣りであるものですから直ぐ殿下からお聲が掛りまして、永田何時來たか、斯ういふやうなお話であります。それで私はその時は三十日でしたが、二十八日に當地へ参りました、といふ事をお答へをして、さうして暫く一座の人、蜂須賀侯爵や宮内大臣でありました牧野さんやと雑談を暫くして居られたが、殿下は又私の方を見られて、永田、淡路島の道路は大層良いいね、東京の道より良いいねといふお話がありました。これはこの前も本に書きましたから御覽になりましたか知れぬが、東京の道より良いいねといふお話であつたのです。この東京の道より淡路の道がよいといふのは、その時は良かつた、何しろ殿下がお出でになるといふので知事が色々道普請をした。所が淡路の道がよいと御覽になつたと見へて東京の道より良いいねと仰つたから、私は知事の骨折りで大層良くなつて居り

ます。東京の道も皇室から御下賜金がありますので大變よくなつて居りますと申上げると、殿下はまた私の顔を御覽になつて、でも一向よくなるんじやないかと仰せられた。その時は皆の人が私の顔を見てさぞ困つたらうといふ心持ちで居られる。私は東京に居る時は道は直らぬかといつて喧しくいはれることは聞き馴れて居るのですが、殿下から直接にさういはれると誠に困つた。段々やつては居りますが埋設物の關係などがありまして却々急に参らない事情もあります、困つて居りますが歸りましたならば一層奮發して良く致しますと、そこまでは當りまへの御挨拶であります、皆が私の顔を見るので私も少し皆に對して何か餘り困つて居るやうに思はれるのもいやだと感じましたので、然し殿下、淡路まで御出でになつてさう東京の事を仰しやられては誠に恐縮いたしますと斯う申上げた。所が殿下にはニコニコお笑ひになつて居られたがそれでも東京の中での悪い道よりは淡路の道が良いいね、と大部御訂正があつたのでこれなれば私も多少面目が立つので、東京の道路が淡路の道路より悪いといはれると困



る、東京の道路の悪い所より淡路の道路の方が良い、斯う仰せられたので、それで東京市助役も助つた譯である。

そんな譯で私達が困つて居る様子を御覽になると、また助つたやうなお話が出る、丁度色々な話が出ましたが私の一番困つた事柄は、殿下は運動がお好きであるものですから、折原といふ兵庫縣知事に折原はテニスをやるかといふお話、知事は小々やります、とお答へした。さうすると軟球か硬球か、と仰せられた。折原知事は軟球でございまして答へた。さうすると殿下は大部舊式だね、と仰せられた。さういふお話、所が折原がそこまで置いておけばよいのに、私は撞球もやります、ボートも漕げますと自慢を始める。私は傍で聞いて居つて、折原のやうにあゝ何でもやるものは何も上手になりませんと斯ういつた。折原のことをさういつたのですが、殿下が直ぐその後で、さうだよ、その通りだよ、私も色々なことをやるが皆上手にならない、斯う仰せられたので、私はその時にあゝしまつた、これはいふのではなかつた、折原の事をい

ふたのであるけれども、全くこれは殿下の事を諷して申し上げたやうに當るのでこれは困つたことをいつた、昔なら切腹をせなければならぬ失言であると思つて、ハツと思つた。所が殿下は極く無邪氣に、色々やるが一番水泳が上手だらうかね、とまた仰しやつた。それで殿下はさほど私が折原に對していつた事をお氣にかけて居られないのだなと思つて蘇生するやうな思ひをした。即ち色々おやりになるうちで水泳が一番上手かなといふお話で私もほつと息を付いたやうな感じを致しましたが、猶その晩は色々な話がありますが、さういふやうな事柄をいろ／＼と通じて殿下の個人としてのお人と成りをその時も考へましたが、まことに同情の深い懐しい感じのするお方でありませう。さうして却々察しのよい、誠に私共さういふやうなところで御同席を賜りましても、そんな難しい階級のやうな、難しいやうな氣分は持つて居られない。極く親しみの多い御性格であるのであります。さう拜する次第でありまして、私はその時の印象が深く自分の頭に残つて忘れられないのであります。



## 五、

その次に丁度大正十二年の九月十五日、震災の直後であります。九月十五日に殿下が震災後の市中をお廻りになつて、丁度この隣（上野公園）の西郷さんの銅像の所に椅子を一脚、卓子を一脚置いて、さうして其處で市中の状況を御覧になつた。まだバラックも餘り建たない時でありましたが、その時私も圖面などを持つて出まして、色々御説明申上げる。殊に神田の佐久間町河岸の一町四方、これは青年團、在郷軍人團が協力奮闘の結果焼かなかつた。また其處に一萬俵米があつた。そのお蔭で九月三日四日といふ大切な時にその米で助つたといふやうなことがありますので、それを色々申上げた。ところが殿下からは食糧品のことに就いてもお尋ねがあります。そこで食糧品は斯ういふやうに澤山參るやうになつて心配はございませんと申上げたら、それでは是から寒くなつて來るから着物の方の心配をしなければならぬと、さう仰せられたのであります。

それで着物の配給のことも、その時の計畫を申上げたのでありますが、さういふことに直ぐお氣付きになつて、お尋ねがあつたのであります。丁度九月二十四日であります。バラックで御生活になつた方は御實驗になつた、非常な暴風雨で、恐らい天候であつた、定めてバラックの中で雨が入つて居りやしないか、困つて居られるやうなことはないかと思ひまして、丁度その時の社會教育課長で大迫といふ今は宮崎の市長をして居りますが、その人を始め五六の人を自動車へ乗せて、市中の重だつたバラックの様子を見て貰つた。幸ひに何事ありませんでしたが、丁度その翌朝、これは私後から承つたことですが、翌朝殿下は御所へ出られて、入江侍從長の上られるのをお待ち兼ねになつて、斯う仰せられたさうであります。昨晩は大層な風雨であつたさうだが、定めてバラックの中に居る人達は非常に困つたことであらうと思ふがどんな様子であつたか、お前は内務大臣の所へ行つて聞いて來い。併し公式に聞きに



来たといふては心配をするかも知れないから、お前の氣付けで何ういふ風であつたかといふことを伺ひに來たといふ心持で、行つて聞いて來い。斯ういふお話が有りましてさうです。それで入江侍從長は内務大臣にそのことを聞きに參つたのであります。其時私も殿下のさういふ特別な思召しであつたか、どうかといふことは承知しませんで、唯だ昨晩は斯ういふ事情であつたといふことを申し上げたが、後になつて、さういふやうな深い有難い思召しであつたといふことを聞きまして、誠に私は感涙に咽ぶの心持をいたしたのであります。東宮殿下に在らせられた時の今上陛下に就いて、私の承知いたして居りますことはその外にもありませんが、大体斯ういふ事柄を私は承知いたして居りまして、斯ういふ事柄を通じて見ましても、如何にも今上陛下は我々のことを始終御氣に留められて居る。また個人といたしましても、如何に御親切の行届いた、なつかしい方であるかといふことを、私のたゞ直覺した印象をこゝに諸君に申上げる次第であります。

六、

日本の皇室と國民の關係のことに就いては私は嘗て『平易なる皇室論』といふものを書いて置きましたが、是れは御覽下すつた方もあるかも知れませんが、その私の突き詰めた感じといふものは、即ちどういふことが私の心持であるかと申しますれば、日本の皇室と國民、我々から見るところの皇室といふものは、我等の皇室である、といふ感情であります。私の尊皇論といふものはそれに盡きて居る。我等の皇室である斯ういふことである、我等の皇室といふことは余所の人の皇室ではない、他國の人の皇室じゃない、我々日本國民の皇室である。我等の皇室といふのが私の尊皇論の骨子である。我等といふことは非常な熱情がある、非常な愛情が籠つて居るのであります。それですからして、さういふ感情を以て皇室を敬ふ。それですから我等の皇室であるといふ主旨に徹底しますと、皇室が尊嚴であるといふことは、我等の尊嚴である。



皇室が尊厳でないといふことは、我等自身の尊厳を失つたものである。

我々は皇室と共に總てのことにするのであるから、皇室と共に存在し、皇室と共に榮える。さういふ感じが私の尊皇論の骨子である。斯ういふことの感情は國民的感情である。それがどうして起るかといふことを説明したものが平易なる皇室論といふのであります。當時あれを佐藤顯理といふ人が英語に譯してくれましたので、それを私は外國の人にも贈りました。ところがジャパン・アドバータイザーの批評の中にも、日本の皇室といふものはどういふものであるか、外國人にはさつぱり分らぬ。然るにこの本は、神道、つまり高天原の神道の言葉を離れて、普通の言葉を以て日本の皇室を説明した最初のものである。それで普通の言葉を以て我等外國のものにも諒解し得る普通の言葉を以て日本の皇室を説明したものを初めて我々が見るといふ批評をしたのであります。私共は神秘的の考へでなくして、やはり皇室は我々の皇室であるといふこの感情を非常に力強く主張したところの皇室論、尊皇論といふものを私と

しては有つて居るのであります。

七、

それで今日昭和の第一の天長節に際して、我々はどういふ心得をして居れば、新帝のお思召しに叶ふものであるかといふことを申しますと、それは極く簡單明瞭な事柄であります。即ち諸君のよく御承知の通りに、昨年末の朝見式の時に賜つた勅語であります。この朝見式の時賜つた勅語に就いて、我々昭和の時代の國民は度々これを繰返して、年に一回位はこの中の主だつた事柄を繰返して考へるといふことが必要であります。この朝見式の勅語の中には、今上陛下の御理想、御主張とでも申上げるやうな事柄が含んで居るのであります。これはどういふことを、今上陛下が我々に求められて居るか、今の時代にはどんな心掛けで日本國民が進まなければならぬかといふことを申述べられて居るのであります。これは私が考へ易い爲に、三つの箇條といたし



まして、極く簡単に説明申し上げます。三つの箇條を考へる、その一つの箇條はどういふことであるかといふと、舉國一体といふことである。舉國一体の心持を日本國民は持たなければならぬ。勅語の言葉を借りて申しますと、

『輓近世態漸ク以テ推移シ思想ハ動モスレハ趣舍相異ナルアリ經濟ハ時ニ利害同シカラサルアリ此レ宜ク眼ヲ國家ノ大局ニ著ケ舉國一體共存共榮ヲ之レ圖リ國本ニ不拔ニ培ヒ民族ヲ無疆ニ蕃クシ以テ維新ノ宏謨ヲ顯揚センコトヲ懋ムヘシ』

といふことを書いてありますので、即ち今の世の中は思想が人々によつて異つて居る經濟の利害が違ふから或は資本家の意見とか、労働者の意見とか種々世想や主張が變るやうなことが出来て来る、その時分に國民はどう考へなければならぬかといふと、宜しく眼を大局に著け舉國一体共存共榮を圖る、斯ういふ事柄であるのであります。近頃は何事でも専門々々となつて、専門の研究が盛んになる程、總ての知識が不具のやうになつて居ります。さうして、大局から物を見て一緒に行くといふ心持が少くなる虞

れがあるのであります。これを物に例へて何時でもいふのは、支那風の譬へであります。すが繪を描く時、猫の繪を描く時分に口髯が百本許りあるからといつて口髯ばかり忠實に描いて居ると猫の繪が口髯ばかりの繪に出来上つてしまふ、これは繪を描くとき總ての人が經驗することでありすが、一つのことを忠實に見て、その局部のみが出来上つて外の所は出来ない。それと一緒に經濟問題でも自分の直接して居ることだけをただ無暗に主張してしまふと、天下のこと口髯だけになつて間違ひが起る。大局から見て、猫の口髯はどこからどこまでと全体から見る觀測が必要である。そこが眼を國家の大局に著け、舉國一体共存共榮を圖るといふことでなければならぬ。或一つの階級闘争といふやうな資本家と無産者とが喧嘩しなければならぬものと定めて喧嘩を煽動する態度は良くない。喧嘩しやうとする傾きがあるなれば、喧嘩をさせないやうに、階級意識を少くするやうにと、皆が努めて始めて國家の共存共榮が出来る。日本の國の成立ちといふものは、四民平等といひ、或は八百萬の神といつて、總てが平等



であつて階級意識を無くするといふことが日本建國の精神である。これを動もすると利害が異つて来るからといつて、或る特殊の階級の利益を主張して眼を國家の大局に著けることを忘つてはならぬといふ、これが第一の御趣旨であると考へます。即ち舉國一体といふことを考へて進まなければならぬと思ひます。

## 八、

第二に勅語の中に現はれて居ることは、秩序のあるところの進歩といふことであります。それに

『我國ノ國是ハ日ニ進ムニ在リ日ニ新ニスルニ在リ而シテ博ク中外ノ史ニ徴シ審ニ得失ノ迹ニ鑒ミ進ムヤ其ノ序ニ循ヒ新ニスルヤ其ノ中ヲ執ル是レ深ク心ヲ用フヘキ所ナリ』

斯ういふ風に仰せられてあつて秩序のある進歩を重んじ、無暗に新しいものに飛び付

いて行くといふのではない。秩序のある進歩主義といふのが、即ち陛下の望ませられるところの御趣意である。日本は昔からこの趣意で秩序のある進歩主義で何が入つて來ても、それを絶対に始めから拒絶するといふやうな態度をいつも採つては居らない。儒教が入つて來ても佛教が入つて來ても耶蘇教が入つて來てもそれを拒絶するといふことを考へないで、どういふやうになればこれを探入れることが出来るかといふことを考へる。そのよい所をどうすれば採り入れることが出来るかといふことを考へたといふのが日本の今日までの歴史である。博く中外の史に徴し得失の迹に鑒みて秩序ある進歩をするといふのが、日本の昔からの歴史であつてその當時々々の我々の祖先が努力して貫いて來て居る。今日もまたその努力がなければいけない。明治維新後になりますと、私等の知つて居るところでもデモクラシーといふ思想が入つて來ました。今は誰もデモクラシーは何とも考へなくなつて免疫性になりました。けれども實はあれが入つて來た時は可なり騒いだ、デモクラシーと書けば發賣禁止ものでありま



した。私共警保局長の時はデモクラシーの爲に命を取られかゝつた。然るに今や免疫性になつてしまつた。今では共産主義とか、その他のものに出會して居るが、これも日本國体に關しない限り、それを研究して見る必要がある。それが即ち秩序ある漸新であります。

### 九

もう一つ勅語のうちに現はれて居りますことは見識といふことであります、それは勅語のお言葉としては

『夫レ浮華ヲ斥ケ質實ヲ尙ヒ摸擬ヲ戒メ創造ヲ勗メ』

といふことがありまして摸擬を戒め、即ち真似をしないで創造即ち創めて作り出す、自分の力で消化して創めて造り出すといふことをいはれて居る。それが即ち日本國民の見識であります。總てのことを真似するのではない。真似以上

のことをする。それは日本は昔から朝鮮の真似をし、支那の真似をし、歐米の真似をする、日本は真似が一番上手だといはれますが、さう見ればさうも見えますが、日本人の真似はたゞ猿の人真似でなく、よく消化して吸収する真似である。それですから儒教でもそのまゝ入つては居らない。日本へ來てよくなつて居る。支那では儒教は亡びて居るけれども日本では仁義の道は盛んであります。また佛教にしても印度では佛教は亡びて居るけれども日本では盛んであります。また耶蘇教は汝の隣人を愛するといふことがあるが、これたとへ歐米では亡んでも日本ではこれを日本風に發達さして行くといふ覺悟がなければならぬのであります。さういふ風に日本は模倣をしない、消化した見識を以て行く、妙なことをいふやうだが私はその一例としていろは四十七文字といふものを思ひ起す。あれは支那の字から出て居るけれども支那の字ではない。さうして意味は特別の意味に使はれて居つて、支那にはあゝいふ簡便なものはない。支那の文字から出て居るけれども全く日本のものに外ならない。あゝいふ片假名を發



明したり、いろはを發明したりするやうな工夫はあらゆる世界の文化に對して日本國民がそういふ工夫を拵へて居るのであります。支那の文字からいろはを拵へ、片假名を拵へ、日本化してこれを使ふといふところに日本は一寸見ると眞似をしてゐるやうでありますがその眞似たるや、よく消化するといふのは何時でも非常な努力がなければ出来ません。さういふやうにして日本は今日まで進んで居るのでありますから、今度の勅語に於ても浮華を斥け質實を尙び模擬を戒め創造を勗めるといふことを仰せられたのであります、これを要するに朝見式に於ける陛下のお思召しの主要なる點は第一は舉國一體になつてやるといふこと、第二は秩序ある進歩といふこと、第三は國民の獨立的見識に基いて動く、この三つの事柄を求められたのであつて、我々昭和の新日本國の國民は意氣潑瀾たる新帝陛下の下に、この朝見式に賜りたる高遠なる勅語の御理想に従つて共々に上下一致、人民一體になつて進んで行くといふことを考へなければならぬのであります。これが即ち今日昭和第一の天長節に於て我々國民が共に

共に聖壽の萬歳を奉祝すると共に、我々國民としての心得を如何に持つべきかといふことを朝見式の勅語に於て見出すことが出来るのでありますから、どうか我々も諸君と共にこの朝見式の勅語に現はれたるお思召しを體して共々に國家の爲に努力いたしたいと思ふのであります

(終り)



其の三、此の時代は、

其の四、此の時代は、  
其の五、此の時代は、

### 前田多門謹述

### 一、國際生活に於ける我國體の誇り

此の時代は、  
其の六、此の時代は、  
其の七、此の時代は、



### 國際生活に於ける我國體の誇り

前田多門謹述

この佳節に當りましたとへ諒闇中とは申ながら昭和の御新政の第一の天長節に皆様と共にこゝに御祝ひ申上げることがは實に何共いへない喜びを感ずるのであります。今日喜びの機會に於きまして私は國際生活に於ける我國體の誇りといふことに就いて暫くの間諸君と共に考へて見たいと思ふのであります。併し誇りといふことは人間に取つてもまた國に取つても餘程注意しなければならぬ事でありまして、誇りといふことは自慢、高慢、或は倨傲尊大、自分さへ善ければ人はどうでもよい。否、自分の善い事ばかり考へて、人の長所は一向目に入らない、自分のやる事だけがよい、自分のやつて居る事はアバタもえくばであるといふやうな、さういふやうな他を排する、



さうして自ら誇るといふ事であれば、それは人を誤まり、國を誤まるものでありますから、餘程注意をいたさなければならぬ事であります。寧ろ我々が考へなければならぬことは自分の短所は何處にあるか、自分の反省すべき短所は何處にあるかといふことを考へるのが先で、自慢高慢は後廻しにしてよいことであると思ひます。併ながら他面に於て人間の本領といふものを考へなければならぬ。國に取つてもさうである。我が本領は何處であるか、本來の面目は何處にあるかといふ事を考へることは大切なことでありまして、人間に自信がない時、その人の將來はなく、國に於て理想が無くなつた時、その國は亡びるより仕方がないのであります。この意味に於きまして、斯る佳節に於きまして我國の誇りさういふ本領といふ意味に於ての誇りを考へる事は徒らではないのみか大いに考ふべき事で、且つこの本領を自覺してそれを進めて行くことを考へなければならぬと思ふのであります。或は私のいふ結論は前の永田さんの御話と同じことになるかも知れない。たゞ述べる徑路が私の経験から來て居りますから

道筋が違ふか知れませんが、結論は同じ事であらうと思ひます。私は只今御紹介のありました通り最近ゼネバに足かけ四年、丁度三年半ばかり國險労働機關に日本の政府代表として出て居りました者であります。労働機關と限られたるもの、日本の政府代表でありますから、滞在中は氣になりまして、私が微力であれば、微力である程、私のやうなものが日本政府の代表と思はれて、自分の足りないことを日本に禍を及ぼしはしまいかといふ事を始終心配して居つたのであります。

## 二、

私は家庭を以てあちらに住んで居りました。小さい子供を學校へやつて居りましたが、小さい子供でも、幼心を以て日本を背負つて起つ、日本といふものがどう響くかといふ事に就て神経質な位氣に懸りますので、その経験から極く明るさまに申しますと、私の四年の生活に於て日本といふ國柄について肩身廣く感じた場合と、肩身狭く



何となく後ろめたく感じた場合と、ごつちが多いかといふ事を申しますと、正直に申しますと、後ろめたく肩身狭く感じたことが多かつたのであります。それは無論私の方の足りないことが大原因である。併し私は國際労働方面の事柄に就いて日本を代表して居つたのであります。その方面の事柄については甚だ遺憾ながら肩身狭く感ずる事が次へくと起つて參つた。その事柄を全部申しますと、その事だけでも一時間もかゝりますから、それは省くことにいたしました。ほんの一例を申し上げますと、一昨年の労働議會に於ても昨年も、兩回に亘つて其處の代表が日本を攻撃いたしました。攻撃の要點は何であるか、今を去ること五、六年前一九一九年華盛頓に開かれた労働會議で、労働時間を極める事及び婦人小兒の夜業を禁止するといふことを決議しましたが、日本と印度は労働狀況が西洋と違つて居るから、日本はもう少し長い時間を貰はぬとやり切れない、労働者は短い時間を賛成いたしますが、多數決で以て日本は九時間半労働、一週間五十七時間、印度は六十時間といふ事で條約案を決議された。所が

その後、特殊國として特別にさういふやうに定めて貰つたに拘はらず印度はその條約を批准したけれども、日本は今以てその條約を批准しない、その爲に印度の紡績業は日本の紡績に壓迫をされる、一體紡績業の原料たる綿は印度に出来るが。それを船に積んで日本へ持つて行つて、製造をして印度へまた持つて來ても尙印度に商賣で勝つといふのは、これは畢竟印度は條約を守り、日本は條約を守らぬので、安い賃銀で競争をするから印度が負ける、つまり日本は非人道的の労働條件を以て印度に勝つといふことをいつて盛んに攻撃いたしましたのであります。これに對して私は日本政府代表として種々の辯明をやつた。無論印度の論點は誇張した點があります。形の點からいへば批准したと、しないのは餘程違ひます。けれども實際的に労働條件を比較いたしました。賃銀であるとか、労働その他の設備といふものを考へますと、日本はやはり極東の中に於ては労働條件がよいので印度に彼はいはれることはない。併ながら形の問題だけについて申しますれば、この條約案を批准したこと、批准しないこ



と、は批准しない方が悪いに違ひない。是等の事も將來研究して異議を他よりいはしめないやうにしなければならぬと思ひます。殊に労働問題に關しては西洋では百年間の歴史を通つて來て居る。日本では數年來この問題が始つたといふことで、とかく西洋と一緒にはない。ならない爲に吾々の凡ての文明状態が劣つて居るといふ推定を受けて實は随分苦しい思ひをしたことがあります。其の外日本に關しては種々の誤解がある。日本人は先刻も御話がありました通り、自己の知見を廣める爲に、西洋のことは勉強しなければならぬ、中等學校では英語をやらなければならぬといふやうなことで、出来るだけ西洋の事物を知らうとして居る。充分に我々が西洋を知り得たといへませんが、知る可く努力をしてゐるといふことは西洋人も驚いて居る。ところが西洋では日本を知る必要がないから一向日本のことを知らない、今でも教育のある人が日本に汽車がありますか、電車がありますかと聞かれる、聞かれると腹が立つが事實先方が知らぬのだから仕方ない。日本で和服を着て中折帽子を冠つて歩いて居る。

我々が見てはおかしくない、普通のことですけれども、日本人が和服でシャツボを冠つて居るといふと向ふの人は笑ふ、昨年春巴里に博覽會がありました日本出品がありました。セーヌ河畔に日本趣味の極めて洒落た家が建つた。大變好評判でありました。一寸外見だけは他のガツシリした西洋の建築の中に交ざつて、吹けば飛ぶやうな木ツ葉家ではありますが、近寄つて見ると實に繊細な優美な日本趣味が溢れてゐるのを、私共見に行つて快く誇り顔に思つた。ところがある西洋人の批評を求めたところ彼は言はく、優美であるけれども、たつた一つ缺點がある。それはお座敷のまん中に電燈が下つてゐる事だと。私共は既に電燈を日本の生活に取り入れて自分のものにした積りで居る、恰かもいろは四十七文字の如く元來は支那の輸入の文字であるが日本化したと同様に電氣の生活を日本のものとして居る。電燈にいたしましても、今日は伊勢大神宮にも電燈をお用ひになつて居る。ところがそれを西洋人が見るとおかしくて仕様がな。あれはおやめなさいと、どの西洋人も符節を合せるやうにいふ。これは



現在日本の文明生活がどうなつてゐるかといふことが分らない爲めであらうと思ふ。

### 三、

ゼネバは各國の人が出入するところでありまして、國際聯盟の役所の中には三十ヶ國の國籍の人が居ります。だから常に餘所の國の噂をやつて居る。丁度徳川時代のお茶坊主が參勤更替の大名の噂をするやうな譯で、ところが、聯盟事務局には頭の鋭い人がありまして、短い言葉で各國の人の批評をして居る。その中に日本人のことをどういつて居りますかといふと、その前に英國人のことを参考の爲め申しますが、英國人に對しての諺は曰く、一人の英國人は馬鹿で、二人の英國人はスポーツマン、三人の英國人は大きな帝國を作る。これは却々穿つて居る、一人の英國人の議論は論理に叶つてゐない。フランス人と英國人と議論をさせると佛蘭西人は論理的に整然と議論をする。英國人は常識的でありますけれどもやゝ非論理的であります。従つて議論をす

ると佛蘭西人に負ける。けれども長い眼で見ると、理論に叶つてゐる佛蘭西人の言葉より、英國人のいふことの方が行はれる。どこに力を持つてゐるか分らぬが行はれる。そこで一人は馬鹿だ、二人は運動家だが三人寄ると帝國を作るといふのであります。日本人についてはどういつてゐるかといふに、一人の日本人は沈黙である、二人の日本人は微笑をするといふのはつまりニヤ／＼するといふ意味で、三人の日本人は神祕不可思議である。斯ういつて居る。これを我々日本人お互ひ同志で考へて見ますと、この批評は敢て當つて居るとは思はない。我々はしやべる點に於て人後に落ちない。それをどういふ譯で西洋人が沈黙だといふのか、國情が分らないからであります。殊に日本から西洋に行く總べての人が語學に達して居らない。一寸見物に來られる人々の或る方は西洋語に通じない。然し西洋人に會うた時あんまり先方にはかりしやべらしてゐては濟まなないと思ふからニヤ／＼と笑ふ。之れなら馬鹿かと思つて居ると案外敏捷で機械の發明などもニヤ／＼笑つて居る間に盗つて失ふ。ぼんやりして居る



と日本人に發明を盗られる。そこで神秘不可思議の國民ではないかといはれる。ところが個人の交際に於ても然るが如く、國の交際に於ても外國の人には分らぬ。神秘不可思議でどこが考への中心か分らぬと思はれて居ると困るが、然しながら大體に於て西洋人と違つて神秘不可思議なところがある譯でない。これは要するに日本の國情が分らぬからであります。さうした誤解が生ずる、誤解の爲に同情が出来ないといふこととなりますから、國際生活に於て日本といふものをよく知らせることを考へて行かなければならぬと思ふのであります。

#### 四、

斯くの如く或る事柄については日本を誤解して居ります。然しその西洋人でも分らぬながらも感心して居ることが私の考へでは二つあると思ひます。

一つは何であるかといふと、火事や地震の多いこと、これは何も自慢にならぬこと

であります。序ながら申しますが、あちらに居つて、日本のニュースを新聞で見ますと、よい事柄についての報導よりは、悪い事柄についての報導が、日本については非常に多い。これを非常に残念に思ふ。例へば、地震である、洪水である、或は今度の銀行取付の騒ぎであるとか、あちらに住居しまして日本を西洋人がどう思つて居るか、神経質になつて居る矢先き新聞を見るとよい事柄といふものは出て居らぬ。私に日本に不在中随分よい事もありましたが、それはニュースに來ないで、地震、海瀟、或は昨年ありました長野縣での騒動が起つて知事さんが殴られたといふことがありました。こんな事が大きく出る。日本に於ける大騒動といふことで、辱しい記事が出る。或は海瀟があつて三百戸流れたの、火事があつて五百戸焼けたなどいふやうに、大きな見出しで出る。如何にも、それはその筈であります。西洋の家と日本の家とは違ひます。それを西洋人は西洋のやうな家が直ちに三百も流され、或は千も焼けたといふので私共丁寧なお悔みを述べられるのであります。實は吾々に取つては三



百や五百焼けたりするのは比較的馴れつこになつて居る事柄である。然し先方の賞めるのは何も天災を賞めるのではない。地震や海嘯があつても日本人は實に元氣がよいどんなことがあつても、盛り返してまたやる。若し西洋に大正十二年のやうな大地震大火事があつたならば、皆へこたれて失つて復興は出来ないのに、日本人はその翌日から直ぐに復興に取りかゝる。百難撓まずやつて行くことの元氣があるといふのは、幾分お世辭もありませうが、彼等の感心して居ることでもあります。前に申しましたやうに三百、五百といふから驚くのもありませんが、兎も角復興的氣分の強い百難に撓まず進むといふ點を尊敬する。これは私は或點まで本當であると思ふ。或る點は本當であるけれども、その我慢の特徴といふのは私をして考へしめれば非常道徳として我慢をする點が偉い。一體日本人は非常道徳が發達して居つて平常道徳、通常道徳が發達して居らないやうに考へるのでありますが、火事があつたり地震があつたりすると道徳が出る。さういふ時にはお隣の人又は知らぬ人迄も助けるといふやうな、美談

が到る處にある。さういふ非常の際にある道徳といふものは世界に誇る偉いものを持つてゐると思ふ。しかしながらそれだけ仁人志士が平常に於てあの電車の中の有様はどうであるか、汽車に乗る時袴のひだを擴げて場所を取るとか、平常道徳の方面が缺けて居るやうに思ひますが、その非常道徳の發揮といふことが西洋人をして驚嘆せしめて居るやうであります。第二に西洋人をして感心せしむる事は、これが今日特に御話致したい問題であります。それは我國が單一無雜の國である。さうして地理的に恵まれたる所であつて、大平洋の中の島國によつて國自身が成立つて居つてその島の中に成程起源からいへば色々の分子から成立つて居ませうが、今日に於ては一民族として單一無雜な國民である特殊高貴なる國體を持つて居る。これは實に羨しいと言ふ人が多い。或る西洋人などは泌々羨しく此の事を私に語つた事がありました。何故さうかといふと、歐羅巴の國は大抵陸地続きでありまして、込み合つた陸地の國境で國と國と臨んで居る。ヴェルサイユの條約で新しい國が出来ましたが、それが出来れば出来



る程、國境の問題といふものはうるさくなつて來る。私の住んで居りましたゼネバなどは極端でありまして、たつた一本道、瑞西の真中の方へ通する一本道だけが、五六時間汽車で行けば他の國境に突き當る丈で、他の道は何十本あるか知れないが自動車でジュネーヴからドライブして行くとなつて十分か十五分にしてすぐ國境に突き當る。車から降されて旅行免状を見られて、持つて居る荷物を検査される。只今はいくらか樂になりましたが、戰爭中は中立國でありましたが非常な嚴重な検査をする婦人に對して殊にやかましい、髪の毛を一本一本梳いて見る女の検査官が居て、一人々々部屋へ入れて調べたといふことも聞いて居ります。今日はそんなことはないが戦前は旅行免状がなくてもよかつたのですが今日は平和條約が、出來ても旅行免状がなければ餘所の國へ行くことは出來ない。考へればあの何十何百であるか知れない國境の検査場に於てどれだけ時間が空費され、手数が繰返されて居るかといふことを日本に於ては想像が出來ない。その想像が出來ないのは日本人と米國人であります。汽車で五

日走つても國境がない日本は島國に居る有難さにさういふ苦勞がない。さういふ陸地續きの國境といふものはたゞ手数の煩雜とか面倒とかいふ事柄の外に實に國民精神の上に悪い影響を與へる、何故となればその國、陸地續きの國境を以て境されて居る國が始終仲の良い間柄であるとは限らない。例へば私が瑞西に居る時に佛蘭西側で自分の國境を家の境界でいへば此方の垣根を此方へ持つて來たといふので瑞西人が怒りまして、國民大會を開いて示威運動をやる、さういふ時には困る、一本の線を劃した時甲と乙があつてその甲と乙がその線を一寸どうにかすれば境が亂れる、別に大きな川が境をしてゐるといふ譯でもなし、山が境をして居るといふのでもない。野原に人為的に線を劃して境として居るのでありますから、それを境にして住む人民の間にお互ひに悪い感じを持合ふといふことは堪へ難い悪い影響を國民の精神に與る。一時の争ひならまだしもであります、さうではない、永年、數十年、數百年以來葛藤が絶へない國と國ともある。先祖代々敵愾心を有つて相對してゐるといふ國がある。例へば



佛蘭西と獨逸の如き隣り合つて居るが丁度それである、一家の中で不和が起るといふと、他人が不和を起すよりも厄介である。一家の中で毎日同じ竈の飯を食つて居ながら此ン畜生と思ひ合つて居るのですから、その争ひはひどいことになつて、中には毒殺騒動が起つて来る、それと同じことでもあります。例へば日本で數年前、私が西洋に居つて留守中のことでありましたが、米國で不都合の移民法を作つたといふので、國民が激昂したといふ。これは私は理由があると思ひます。人種に依つて區別を立て、他の國民を堰くと言ふは不都合である。殊に米國は天惠を有つて居る國、而して人口の稀薄な所もある國、之れがかゝる事をするのは不都合である。これに對する日本國民の公憤は正しいのであります。さうしてこれは武力に訴へるにあらずして、最高の道理に訴へて先方の非を改めさすべきものである。これを改めさせるといふ事に就ては其の後數年たつたからといつて引込ませるべきものではない。これを忘れてはならぬ。近頃眼の玉の青い人形などが送られて来る。日本からも日本の大和人形を送る。

これは誠に結構なこと、思ひます。けれども理論の上に基いて居るところの國民の最高の公憤に基くところの我が要求といふものは眼玉の青いミス・アメリカが來たといつて帳消しにすべきものではない。文明の民として、平和の民として日本特有の地位から立つて平和な精神を世界に公布しなければならぬ。責任の立場から武力などに依つてこれを解決すべきでない。然し米國人が心から辱しいといふ氣をするまで何百年か、つても我より正當なる主張をするといふ粘り強さがなければならぬ。それは臨時道德ではいけない。通常道德として長い間靜かな口調で穩かな筆法で然しどこ迄も正しい主張を貫く事が必要であります。けれども何といつても感じの上では人形が來ると悪い感情をしない。此方からも人形をやるか向ふが喜ぶは何であるか、つまり彼我共に何千哩距つて居るからである。毎日鼻を突き合せて居て氣まづい思ひをする事がないからであります。感情的に始終いやな思ひをして居るといふのではなく、道理に訴へて解決しやう、然しながら感情的に好意を捧ぐるものに無用の 感を持つ必要は



ない。米國の議會は悪くても米國民には好意を持つて居るものがある。これに寛大なる心を持つて我々が接し得るといふことは地理的に陸地続きでないからであると思ふのであります。

## 五、

それから民族的の方面に於て考へますと、正直に言うと、私共歐洲の國際關係を見て、時にあきれる事がある。色々の問題が起る度に、よくも斯うつまらない問題を見がみ合つて議論をするものだ。もう少し淡白に片付けたらよいといふやうに考へられます。さういふことをいひますと關係者の西洋人は常に我々に向つていふには、それは我々の立場になつて考へて御覽なさい。あなた方は遠い國に居つて一つの民族で一致和合して居るからさういふことはない。ところが陸地続きに國を有つて民族が錯綜して居るところでは、他國の間隙のやうなものが居つても、それが法律上我國民とな

つて居るやうなところでは、確執がしつこくなるのは已むを得ない。先祖傳來の感情といふものはあなた方のやうに島國で孤立してゐる人には分らない。我々の苦境を察してくれ、同時に日本のやうな帝國を有つて居る人は羨しいといつたのであります。殊に石井大使の如き二三の場合に於て日本人の立場から公平に見た意見を吐かれて、誰が聞いても理論の上から捉へられざるものであるといふのでその爲に日本が重きを致したといふ事例がある。しかしこれは我々が地理的に天恵に居つて、さうして民族上單一無難なる人民であるといふお蔭であります。例へばチエツコスロバキアの如き、歐羅巴に於て新興國として大なる將來を有して居ります。然し大缺點は何であるかといふと民族に混り氣が多い。チエツコスロバキアの人口は千二三百萬人ありますが、その中の四分の一は獨逸人であります。ところが獨逸人とチエツコ及びスロバキヤ人とは利害が反對してゐる。元來獨逸系統に謀叛をして獨立國になつたから獨逸からいへば昔の敵であります。その獨逸人が四分の一の人口を占めて居る。その他にも他民



族が混つて居る。さうしてチエツコスロバキヤの人種は全體の半分一寸多いといふ有様であります。これは極端な例であります。歐羅巴では佛蘭西などは民族が一致して居る、英語でいふネーションとステートとは別である。ステートは法律上の國家でネーションは民族的なものである。そのネーションとステートと一致して居るのが佛蘭西だといつて居りますが、それでも今日は三百萬程の外國人が入込んで居ります。さうして純粹な佛蘭西人の中にも北の方のものと地中海方面のものと山脈地方のものと三つに分れて居ります。英國は島國で日本に似て居るといふけれどもアイルランドといふものは近頃獨立してしまつた。大きな母國の中には入つて居るけれども昔のやうに英國の一部ではなくなつてしまつた。殊に英本國に對して反感を抱いて居る。ゼネバに來て居る愛蘭の代表は英國育ちであるにかゝはらず佛蘭西語を話す、實に恐しいものであります。

これに依つても私は統治といふものは大事なるものである。例へば朝鮮の統治について

日本が苦心いたして居りますが、これなども我々が大國民の襟度を有つて、朝鮮人と融合して共存共榮の道を圖つて行くといふことは、この愛蘭の問題を見るにつけても痛感したのであります。ところがもつと狭い意味に於て英國の蘇蘭は英國人と同じく見られて居るのであります。蘇蘭人と交つてその挨拶にあなたは英國人ですかといふと、いやさうじゃありません、スコツチですといふ。その位蘇蘭人は別だと思つて居る。それで祝祭なども英本國とは別にやつて居りますが、しかし彼等が熱心にやつて居るものは何かといふとセントアンドリュースの祭をする。斯くの如く蘇蘭と英蘭とは確實な別な氣風を持つて居つて單一無雜ではない。米國は世界第一の繁昌國であるといつて威張つて居る、實際さうであります。今日では他の國とはもう大分違ひになつて來た。しかし繁昌になつて來たからといつて全然御代安穩か、泰平かといふとさうではない。人種上の大きな悩みを有つて居るといふものは米國の人口の一分以上を占めて居るものは黒人でありませぬ。黒人が千萬以上千二百萬ある。これをどうす



るか、黄色い我々にすら彼はいふ奴があるのですから、眞黒い奴に對してはどうするかといふと、これが甚だ當りが悪い。黒人は益々ひがみを起して来る。一方には黒人は段々勉強をして今では大學の卒業生もある、中には學力に於てはコロンビア大學を一番で出た程の黒人がある。大學に於ても中學に於ても、何も白い人に負けないのに我々を輕蔑するのは何事であるか、この要求は無理からぬことでありますが、黒と白と雜居して行くことは出来ない。或る識者は冗談でなくして米國は金があるんだから亞弗利加に残つた土地があるから金をやつて其處へ行つて貰つたらどうか、或はニューギニアを金を出して千何百萬の人に其處へ御引越しを願つたらどうかといふやうなことをいつて居ります。これは一方國力が盛になればなる程、禍ひを持ち来る。

斯くの如く考へて見ますと我々は何たる天の恵でありますか、陸地續きはなく人種上に單一無雜な國民で同じ言葉を有ち、同じ精神を有つてお互ひに考へる。さうして斯ういふ天長の佳節に當つて、聖壽の無窮を奉祝する場合、言葉を以ていひ盡せないや

うな共通な感じを以て御祝ひ申上げるといふことは、私共の何たる幸ひであるかと思ふのであります。

六、

この幸ひはあまりに明らかな事であり過ぎる爲に、實は我々は恵みに馴れて居ると思ふ。空氣の有難味は一般の場合には分らない。空氣の稀薄なところへ行つて空氣の有難味が分る、平生は空氣の有難味を忘れ過ぎて居る。幸ひ斯ういふ佳節に際し新に之を思ひ浮べて我々はこの天恵を喜ばなければならぬと思ふのであります。然乍らこれは天恵である。地理的に我々は恵まれて居る、又單一無雜の民族といふものは、萬世一系の皇室によつて總べて統御されて居る。我々のやうな國を持つて居るものは世界の他にはない。今日の國際生活に於てこれも有のまゝに申しますが、日本のエンバイヤーであるといふことに反感を持つ西洋人がある。日本には今もつて君公が居られる



然るに我々は共和國であるからその方が進んで居るといふ感じを持つ人がないでもない。しかしそれは淺薄な思想から起る反感でありまして、我々が事柄を説明をするときよく分るのであります。何故さういふ誤解が起るかといふと、西洋の言葉にある、或は西洋の言葉に包含せらるゝ王とか、皇帝とかいふ意味と、日本の天皇陛下といふ意味とは違つて居る。意味は違つても、言葉が同じだからさういふ誤解を起すのであります。何故かといふと詳しく申上げる時間はありませんが、西洋の歴史を研究して見ますと、西洋の王とか皇帝とかいふものは人民に對して居る一つの階級である。力を以て人民に臨んで、而して武力を以て人民を押へつけて、人民に君臨する。無論西洋の歴史でも仁君がないではない、仁君はある。しかしながら一般に言へば人民に相對して居る位置を占めて居るのが西洋の君主である。さうして近頃の言葉でいへば人民を搾取したといふこともないではない。それが爲にシーザーであるオーガストであるとか言ふ語の内容は皆力、權力に基いて居るのみである。だから皇室といふものに

就いて聯想するものは秋霜烈日のやうな力を有つて臨む事である。従つて西洋の立憲政治といふものは人民が王から今日は一つ、明日は一つと特別な條件を付けて取り戻す事であり、つまり彼と我と取合ひ、與合ひをするといふことになつて居ります。だから權利義務の關係に立つのであります。西洋の皇帝の宮殿又は紀念碑を見ますと莊麗を極めてゐる。つまりこれを以て人目を眩惑して治めんとするのであります。莊麗を以て他に臨み、威嚴を以て他に臨む、ところが日本の皇室と人民との關係は何であるかと申しますと、徳を以て中心として居る。すめらみことといふことは既に徳を中心として居る。誠を行ふといふことであります。即ち武力とか權力とかいふことはない。徳の源であるといふことは日本に於けるみかどといふことの根本觀念であります。徳といふものを以て人民に向はれて居るいはゞ人民の家長で御在でになる。大きな日本といふ民族は家長として我が皇室を載いてその御仁愛に浴して居るといふ考へは歴史を通じて現はれ居る。その一つの證據として日本の皇居を拜觀いたしますれば



昔のことは今これを拜観することは出来ないが京都に於ける御所、これはその以前よりは立派でありませうがしかしそれでも實に御質素であります。一般の貴族、富豪の邸宅に比べて御質素であります。また東京にお移りになりましたからは國際上の御關係もあり昔よりも御手重もになつて居りますがしかし特徴は何であるか、單一無雜なる點であります。單純な御簡素なところにある。丁度伊勢神宮が白木造りであるのと御趣旨は同じであります。私最近吉野に参りまして、吉野廢朝の趾を拜んで感涙に涸んだのであります。あゝいふ所に天皇が御在でになつたことは恕れ多いことでありませんが、これは臨時の場合として、然し平生の御所でも大體簡素であられました。また昔の御宸翰を拜しますとあれは實に帝王の威嚴を以て他に臨むといふよりは友情を以て臣下に臨まれるといふことの親しみが御宸翰の文書に現はれて居る。要するに形式の威嚴を以て人民に臨む必要はない。家長として人民に臨んで居られるのであります。

七、

近世の國家思想は昔は權力を以て中心思想として居りましたが近頃は奉仕を以てするといふことが政治の中心となつて來た。即ち警察國から移つて文化國に行くといふのが近世の状態でありますが、これを我が皇室に就いて申上げれば、身を以てその眞理を既に御躰験遊されたのであります。かく特殊高貴な國體を有し此の單一無雜な國體を形作り居る吾々が其の本來にあらざる人爲的なものを以てこの單一無雜な國體を汚すといふことは残念なことであります。人もこれを許し、我もまたこれを本領とする單一無雜なるものを外來思想に誤られてその我々の本領を没却するといふことは祖先に對しても申譯がないと思ひます。例へば階級闘争これは日本に於てあらしむべきものではない。何を苦しんでか階級闘争を作る必要があらうか。また特殊の人に對して、平等の取扱ひをしないと言ふやうなことは悪い。然しこれを誇張して西洋に於け



る人種問題と同じく考へることはない。お互ひがよく考へて日本の國體から割出して解決を求めらなければ我々は階級を作つて互ひに相分れ相せめぐることによつてこの問題を解決するのではない。兄弟手を握合ふて進むと言ふ觀念を以て解決が出来るのであります。我々の地理的、歴史的解決がさういふことに向ふことを暗示して居るものであります。

## 八、

私西洋に居つてつくづく感じましたことはまだ、日本の實力が足りないといふこととであります。何とかして日本の實力を高めて行き度いといふことを痛感する。私が關係して居りました労働機關には理事會と云ふ最高機關がありますが、是には八大産業國は當然これに列席する権利を有して居ます。日本は其の八大産業國の一として私とその政府代表として列席して居たのでありますが一體日本が八大産業國に入るとい

ふことは政治上東洋に於て特別な地位に居りますからであります。今日の席には西洋のお方がお在でにならぬやうですから有のまゝに申し上げますが若し單純に産業統計を以て調べて見ますならば、日本はまだ八大産業國には入り得るや否や問題でありませう。國際労働機關には米國が入つて居らない。露西亞も入つて居らない。かゝる兩大國が入つて居らぬにも係らず日本が數字上八大産業國に入り得るや否やが疑はれると言ふのは甚だ情け無い事である。日本が産業の上に於ては人口が多いといふことだけは誇り得るが、後のものは皆劣つて居る。我々は労働問題が起つたと騒いで居りますが、その根本の工業問題に就いて我々は何を有つて居りますかと申しますと、一番大きなのは紡績位なものであります。

しかもそれは先刻申しますやうに纖弱な婦人を夜、夜中まで使つてやらなければならぬ。然かも人に攻撃され乍らやつて居る。序ながら申しますがこれは昨年政府から工場法を分布して今から二年たつと漸く禁止される譯であります。又輸出の半分は何を



占めて居るか、生絲この生絲に就ても、當業者はまだ馬鹿にして居りますが、人工でやるところの絹絲、所謂人絹といふものが化學の進歩によつて發達したら養蠶でやつて行くものはどうするか、安心して居ることは出來ない。のみならず絹といふものは贅澤品であります。しかもその買手は米國人であります。米國の景氣不景氣に依て動かされ勝ちのものであります。然かもこれが輸出品の半分を占めてゐるといふことは甚だ心細いことであります。私が西洋に居た時痛感した事は、日本人に財産がないといふ事であります。それは地震や火事が多いから我々の持つて居る筆筒や何かと焼けるといふことも一の原因でせうが、西洋人は中産以下のものでも相當なものを有つて居る。さうして投資をする考へがある。感心することではありますが、極く下の人の家へ行つても、この窓かけを御覽下さいこれはおばあさんの編んだものだ、この椅子はおぢいさんの時から買つて持つて居るものだといふ話を聞く。親代々から何十年の間蓄へて居る。さうして日本の習慣で今の収入では買へないと思ふものを持つて居る。

労働者でもピアノを持つてゐる。日本では中流階級のものでも仲々買へない。西洋は賃銀が高いといふけれどもそれはさう違ふものではない。米國では高いがしかし心掛けが違ふ。それを何かに投資しやうといふ氣がある。ところが日本人はお互ひ江戸っ子といふものは宵越の金を持たないといふことを誇りにしてパツバと使つてしまふ。家は豚小屋見たような所へ住んでゐて其のくせチップを氣張つたりします。一回の宴會にも十圓も二十圓も金を出さといふことをやつてどしどし金を消らすことに使ふ。私四年間外國に居つて歸つて驚いたのはカフェーの殖へたこと飲食店の多いこと、其處へ行つてお互ひ同志素貧乏の人が却々驚くやうな金びらを切つてお使ひになつて居る。それならば世間は景氣がよいかと思ふと銀行には取付騒ぎが起り、戦争によつて小金が出來たにしても飲食店へ行つて一遍で消へてなくなるやうな方法を取つて居りますと、折角出來た金も生産的に使ふことが出來ない。一説によりますと、さうやつて贅澤するのは慈善になる、道樂をするから孝行の爲に身を賣るといふ貞女も助かる



だから慈善事業だといふ人もあるけれどもさうは行かない。國家生産の點から見てもさういふ孝女救済は駄目である。さういふ事許りして居たのでは、生産即ち之から子を産み出して國力を付ける事が出来ない。私はどうしても富の畜積といふことをもつと努めなければならぬと思ふ。それでなければこの貧乏では大勢な人がやつて行けない。斯ういひますと前田は政府の金で労働會議へ行つて來たから、資本家の御先棒を擔ぐといふ人があるかも知れませんが、私は茲に資本の蓄積といふので、資本家の蓄積ではない。兎に角資本を蓄積する從て資本が子供を生んで行く、生産に使はれる状態に置かれる事が必要であります。是は第一労働者の爲めに必要である。それをやるには今頃日本が階級闘争をやつて居つては出來るものでない。各々共同作業をしてやつて行くより外はない。まづいものであるけれども分け合つて仲良く食つて居るなれば富んだ家で喧嘩をしてゐるよりは幸であつて將來發展の見込がある。我々は貧乏だからまづいものを食合ふけれどもお互ひに仲よく皆でやつて行かふ、かう言ふやうになるに

は第一金持ちが注意しなければならぬ。お互ひに苦しいが、然しお互ひに己を忘れて共同一致して行くといふ日本獨特の社會原理といふものを考へて、行かなければならぬと思ふ。西洋に於ても近頃階級闘争といふものを必ずしも善き社會原理でないといふことに氣が付いて來た。戦争後市場を失つて労働問題に就いて喧しくなつた英國ではもつと市場を求めて産業を進めなければならぬがそれにはカール・マルクスがいつて居つたクラシカルな社會主義を奉じて、この戦争後の新しい世の中に應用して居つてはやり切れないといふことを、これは私共交際し合つて居つた労働指導者の中でも認めて來ました。昨年の労働總會に於ては今迄例がなかつたことでありますが、米國風の勞資協力の事が大分論せられた。一體歐羅巴人が米國人を馬鹿にするのは我々が想像する以上のもので、まづ赤毛布といふと、あの米國人かと言ふ位であります。近頃金が出来て金びらを切る、切る程馬鹿にする、馬鹿にされても米國は國力が發展して來る。そこで捨て、置くことは出来ない、段々研究して見ると第一米國には自然富



源が豊かな事も大原因でありますが、然し是許りではない。他面に於て労働者が階級闘争よりも共存共榮の方に興味を持って居る事が米國の繁榮を助けて居る。お前さんも儲ける然し儲けたら分配は私等にも適當にしないといふ風で、産業を助長して労働者の企業の参加権といふもの迄實際にやつてゐる處がある。今日では労働者の立てた銀行が五十幾つも出来て居る。一九一七、八年頃にはたつた一つでありましたが、それが元で今日五十幾つといふ銀行が出来た。彼も榮へよ我も榮へよといふのでうまく行つて居る。たゞに米國々々と馬鹿にして居るが、しかしその長所はとらなければならぬといふので、國自慢で多少頑固になつて居ります歐羅巴でありますけれども、そこに氣がついて科學的に産業の事を研究しやうといふので、之を國際労働機關の一つの分科としやうといふ事に極めた。斯ういふ様に産業能率増進などと言ふ事には今迄歐羅巴の労働者は反感を持つて居つたのであります。茲に米國に刺戟されて彼等も今後此の方面に眼を注ぐやうになりました。況や國情の違つた我日本に今頃階級闘争をして

單一無雜な道を忘れてはならないのであります。

## 九、

併し單一無雜といつても決して劃一主義を御奨めするものではありません。單一無雜ではありますけれどもその内容といふものは豊富にして行かなければならぬ。あらゆる長を採つて自分のものとしなければならぬ。その爲に眼を蔽ふて他の長を見ないといふことはいけない。或は思想の統一など、いつて官憲の力を振廻す、或は暴力を以て違つた思想を抑壓することなどは以ての外である。あらゆる思想が百花爛熳と咲き亂れるのがその國の誇りであります。喇叭もあれば大鼓もある、笛もある各々音色は違ふがそこにハーモニーがあつて一つの善きオーケストラを作るといふやうにやつて行かなければならぬ。殊に國是として立憲政治を採用して居りますところの我日本では、一層然りであります。この立憲政治といふものは、反對黨を持つてゐる政治と言



ふ事が言へます。これを劃一主義で自分のいふことを聞かなければ縛つてしまふといふことはいけない。反對黨のいふことも聞くけれども大多数を以てやるといふのが一つの政治であります。それで英國では反對黨のことを陛下の反對黨であるといふ、その意味は反對をするといふのは國の爲、國を良くする、國の弊害を矯めようといふので現在の政府に反對をする、それで陛下の爲の反對黨といふ意味なのであります。反對黨といふものがなければ政治はうまく出来ない。劃一主義では思想の進歩が止まる唯根本主義を忘れてはならない。地理的に歴史的に特殊の國體を持つて居る、その國體は我々の進み行く唯一の道である。そのものを捨て、はいけないけれども、然し其の内容はます／＼豊富にならねばならぬ。それには自分以外の思想にも敬意を表し、其の思想に採る可きものがあれば之を吾に攝取し、採る可からざるものに對しても、一定の寛容の精神を以て臨むと言ふ風にあり度い。この意味が日本の政治界にも欲しい。日本の政治は今までの所では茲に私は誰が善い惡いとかいふのではありません

が、立憲政治の名を有つて居るけれども、まだ源平の戦ひの程度である。源平盛衰記を見ますと分るが平家の盛んな時は源氏の一統は根こそぎ、根絶やしになる。どこまでも敵と見れば息の根を止めなければならぬ。ところがこれが源氏になると平家は根こそぎやられてしまふ。我々子供の時源平争ひといふものをして來ましたが、徹底的にやつつけろといつて無茶苦茶にやる。その意氣はよろしいが、併し反對するのは反對する爲にするのではない。陛下の反對黨としてやる、お互ひによかれかじとしてやる、斯ういふ立憲政治の訓練といふことに就いて我々はまだ足やらないうに思ふのであります。單一無雜といふことを高調する餘り、劃一主義に流れないやうに、全然己の考へを以て他を倒して、力を以てやる壓へ付けるといふことは慎まなければならぬと思ふのであります。一體我々の使命は何であるかといふならば東洋文明と西洋文明を融合するに在りと思ふ。その大きな使命を果しますには、我々傳統のあらゆる特徴を磨いて進まなければならぬ。西洋文明は分析的であり、東洋文明の特徴は綜合的で



あり、西洋文明は歸納的であり、東洋文明は演繹的であります。ところが日本人は修養さへして行けばごちらの素質も持つてゐるのですから、大きなことをいふやうですが、けれども東西の文明を融合するのは日本人の特徴であります。それには神經過敏ではいけない。あらゆる思想をふんだんに受け入れて、それでもつて新しいものを作つて行かなければならぬのであります。

10、

最後に獨逸の哲學者カイゼルリングといふ東洋崇拜者の言ふた事を申し上げます。彼は獨逸の哲學界では變り種ではありますけれども今随分重せられて居ります。この人の意見によれば西洋文明は最早や終を告げて、これから東洋文明に移つて行くのだといふことをいつて居る。彼の書いた「哲學者の旅日記」と言ふ書物に日本のことをいつて居ります。此人は日本へ來たことがある。その旅行記を見ると高野山へ最初に行

つてそれから大和巡りをして奈良へ行つて京都へ行つて、然る後東京へ來て居る。その大和巡りをして居るうちに日本人の特徴を観察して居る。彼曰く、日本人は西洋人の淺薄なるが如くに淺薄である。何んだか賞められたのか、貶されたのか分らない。若し日本といふ國が西洋諸國の隣國であつたら、例へばギリシヤ、ローマに在る隣の島國であつたら西洋人の如き變哲のないものである。ところが東洋に於て印度、支那の隣りに在る、そこで印度や支那の影響を受けて、淺薄であるが、深遠なる學理を解するやうになつた。それは土地的に恵まれて東洋人の持つ特色を持つて居る。然かも西洋人の如く所謂淺薄であり、分析的に考へることも出来る。たゞ發明が出ないだけの缺點はあるが、分析的なる點に於て、西洋人の如く淺薄といへば淺薄、同時に東洋人として演繹的な又綜合的な大きなところを持つて居るといふ事を他面に於て立證して居るのではないかと思ひます。どうしても私は將來、私共の使命は我々自重さへすれば東西文明の融合の任に當る事が出来ると思ふ。この目的に到達するには前途は遠



い。然しながらこの昭和の新帝の御宇に於きまして、我々がこの叡明に渡らせらるゝ帝を戴いて、一致協力してこの道に進み前途に幾多の困難がありましても、それを我々が全うするといふことに於てはほんとうに吾等の誇りを感じざるを得ないのであります。この佳節に當りまして皆様と共に、國體の誇りに就いて倨傲尊大に流れるといふのでなく我々の本領を見て、その本領に依つて進んで行くといふことを考へ得ますることは私の満足とするところであります。

(終り)

### 都市協会の事業

- 都市を完全にし市民生活を氣持ちよくする爲め本協会は左の事業を行います。
- ◇パンフレットの刊行◇  
市民パンフレットを随時刊行し會員には實費を以て提供します。
  - ◇雑誌「市民」の發行◇  
毎月一回機關雑誌「市民」を發行し會員に無料配布します。
  - ◇座談會の開催◇
  - ◇講演會の開催◇
  - ◇音樂會の開催◇
  - ◇觀劇會の開催◇
  - ◇展覽會の開催◇
- 其他市民生活を豊富にし向上せしむる一切の催物を致します。
- ◇一般の出版印刷事業◇  
出版の研究印刷の研究を爲し之を營業します。
  - ◇廣告其他代理業◇  
廣告保險其他一般代理業を營み市民生活の便益を圖ります。

### 新生の日本 定價拾錢

昭和二年九月二十五日印刷  
昭和二年十月七日發行

市民教育會編

發行人 小宅 銀二郎  
印刷人 横 林 平三  
印刷所 横 林 社印刷部

東京市京橋區西紺屋町二十四番地

發行所 東京市 協 會

振替東京六六五六番  
電話京橋六八一九番

315  
114



終

